

標 題

「低コスト簡易型箱わな」づくりで地域ぐるみの鳥獣対策を！  
～ワイワイガヤガヤと約1時間半で完成～

(ダイジェスト)

9月14日、出雲市佐田町において、多面的機能支払いに取り組む「農地・水・環境保全組織 田窪ふるさと会」が主催する「イノシシ捕獲用簡易わな」作製講習会が開催されました。資材代が安く、手軽に入手でき、またみんなで鳥獣談義をしながら短時間で完成することから、“地域ぐるみの対策”を進める上で有効な手段であることを確認しました。

当管内では中山間地域を中心にイノシシ、シカ等による鳥獣被害が深刻化していることから、関係機関と「鳥獣被害対策出雲連絡会議」を組織すると共に、林業部と「チーム鳥獣出雲」を立ち上げ、地域の合意形成を基本とした“地域ぐるみによる鳥獣被害対策”を推進しています。

本年2月、こうした取り組みが期待される「(農)橋波アグリサンシャイン」をモデル地区に選定し、関係機関担当者と同法人を訪ね、被害状況や対応策等について状況を伺いました。そして、具体的な支援策等について説明した後、特に関心を引きそうで“地域ぐるみ対策”のきっかけになりそうな「イノシシ捕獲用簡易わな」について説明し、その作製講習会の開催を提案しました。

その結果、8月に入ってから「より広範で多くの関係者を集めて企画したい」と相談があり、今回の講習会の開催となりました。

当日は、(農)橋波アグリサンシャインの場内を会場に同ふるさと会をはじめ、各集落営農組織、地元猟友会、関係機関から約30名の参加があり、県中山間地域研究センター職員の指導を受けながら、2基の箱わなが一時間半程度で完成しました。作製中には、お互いの被害状況や防止策の使い分け等について情報を交換し、更には地域全体での取り組みについての意見も交わされていました。資材費が2万円程度で、ホームセンターでも手軽に入手できることから、多くの参加者がその設計図を持ち帰るなど、関心の高さを伺うことができました。

一方通行になりがちな研修会も大切ですが、地域みんなで「あーだ！こうだ！」と言いながら、実際に使用する箱わなの作製講習会は“地域ぐるみの対策”を進める上で大変有効で実利のある手法だと感じました。

当普及部では「チーム鳥獣出雲」の活動を今まで以上に高め、「鳥獣被害対策出雲連絡会議」を上手く活用しながら、こうした取り組みが管内全体に波及していくよう支援していきます。



講習会の様子

【島根県中山間地域研究センターHP】イノシシ捕獲用の低コスト簡易型箱わな

[http://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/choju/inoshishi\\_hakowana.html](http://www.pref.shimane.lg.jp/admin/region/kikan/chusankan/choju/inoshishi_hakowana.html)